



## 2024年9月期 決算短信〔IFRS〕(連結)

2024年11月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社FOOD & LIFE COMPANIES  
 コード番号 3563 URL https://www.food-and-life.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 水留 浩一  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 吉田 剛 (TEL) 06-6368-1001  
 定時株主総会開催予定日 2024年12月26日 配当支払開始予定日 2024年12月27日  
 有価証券報告書提出予定日 2024年12月27日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満四捨五入)

## 1. 2024年9月期の連結業績 (2023年10月1日~2024年9月30日)

## (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		当期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期	361,129	19.7	23,384	112.6	21,653	119.5	15,445	83.7	14,633	81.9	14,740	66.5
2023年9月期	301,747	7.3	11,001	8.7	9,864	30.4	8,406	132.1	8,045	123.0	8,855	55.0

	調整後EBITDA		基本的1株当たり 当期利益	希薄化後 1株当たり 当期利益	親会社所有者 帰属持分 当期利益率	資産合計 税引前利益率	売上収益 営業利益率
	百万円	%	円 銭	円 銭	%	%	%
2024年9月期	37,485	45.7	127.46	126.32	20.1	6.0	6.5
2023年9月期	25,721	1.9	69.54	69.01	11.6	2.9	3.6

(参考) 持分法による投資損益 2024年9月期 一百万円 2023年9月期 52百万円

## (2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率	1株当たり親会社 所有者帰属持分
	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
2024年9月期	365,154	77,837	76,568	20.5	661.48
2023年9月期	351,619	72,659	72,268	20.1	612.24

(注) 2023年9月期については、IAS第12号(改訂)「法人所得税」適及適用後の数値を記載しております。

## (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2024年9月期	56,326	△24,066	△34,322	48,695
2023年9月期	42,360	△17,888	△23,876	51,228

## 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	親会社所有者 帰属持分配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2023年9月期	—	0.00	—	22.50	22.50	2,603	32.4	3.8
2024年9月期	—	0.00	—	30.00	30.00	3,394	23.5	4.7
2025年9月期(予想)	—	0.00	—	27.50	27.50	—	—	—

2024年9月期期末配当金の内訳 普通配当 27円50銭 記念配当 2円50銭

(注) 詳細は、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況 (4) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当」をご覧ください。

## 3. 2025年9月期の連結業績予想 (2024年10月1日~2025年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		調整後EBITDA		営業利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	408,000	13.0	41,800	11.5	26,000	11.2	15,000	2.5	132.60

※ 注記事項

(1) 期中における連結範囲の重要な変更 : 有  
 新規 2 社(社名) 北京寿司郎餐飲有限公司  
 SUSHIRO MALAYSIA SDN. BHD.

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更  
 ① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 有  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年9月期	116,069,184株	2023年9月期	116,069,184株
② 期末自己株式数	2024年9月期	2,945,764株	2023年9月期	382,884株
③ 期中平均株式数	2024年9月期	114,808,427株	2023年9月期	115,681,282株

(4) 各種指標の算式

指標	算式
調整後EBITDA	営業利益+減価償却費及び償却費(使用権資産の減価償却費を除く)+減損損失

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その実現を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況(1) 当期の経営成績の概況② 次期の見通し」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	4
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	4
(4) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当 .....	5
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	5
3. 連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 連結財政状態計算書 .....	6
(2) 連結損益計算書 .....	7
(3) 連結包括利益計算書 .....	8
(4) 連結持分変動計算書 .....	9
(5) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(6) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	11
(継続企業の前提に関する注記) .....	11
(会計方針の変更) .....	11
(セグメント情報) .....	11
(販売費及び一般管理費) .....	13
(1株当たり情報) .....	13
(重要な後発事象) .....	13

## 1. 経営成績等の概況

## (1) 当期の経営成績の概況

## ① 当期の経営成績

当連結会計年度におけるわが国経済は、円安の進行に伴うインバウンド需要の増加等により経済活動の緩やかな回復が見られました。一方で、世界的な政情不安や想定以上の円安の長期化に伴う物価上昇により、先行き不透明な状況が続いております。

外食業界におきましても、原材料価格やエネルギー価格等の高騰に加え、慢性的な人手不足等により引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社グループでは、「変えよう、毎日の美味しさを。広めよう、世界に喜びを。」をVISIONとして、日々の食を美味しくすることで、お客様の生活や人生までゆたかにしたいという願いに向けて、商品開発、店内調理、安心・安全の取り組み及びサービスの向上に取り組んでまいりました。

また、業態別店舗数は以下のとおりであります。

[当社グループ業態別店舗数]

業態名	前連結会計年度末	出店実績	閉店実績	当連結会計年度末
国内：スシローブランド (テイクアウト専門店)	653(12)	13	11(3)	655(9)
国内：杉玉ブランド(FC)	79(17)	14(5)	6(5)	87(17)
国内：京樽ブランド	137(－)	3	23	117(－)
国内：回転寿司みさき・ 三崎丸ブランド	95(－)	3	3	95(－)
国内：その他ブランド	22(－)	1	5	18(－)
国内合計	986(29)	34(5)	48(8)	972(26)
海外：スシローブランド (テイクアウト専門店)	132(－)	45	3	174(－)
海外：その他ブランド	5(－)	5	1	9(－)
海外合計	137(－)	50	4	183(－)
国内外合計	1,123(29)	84(5)	52(8)	1,155(26)

( )内は内数でテイクアウト専門店・FCの店舗数

以上の結果、当連結会計年度の経営成績は、売上収益361,129百万円(前連結会計年度比19.7%増)、営業利益23,384百万円(前連結会計年度比112.6%増)、税引前利益21,653百万円(前連結会計年度比119.5%増)、親会社の所有者に帰属する当期利益14,633百万円(前連結会計年度比81.9%増)となり、売上利益共に、連結会計年度として過去最高を更新いたしました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

#### (国内スシロー事業)

お盆期間中の「南海トラフ臨時情報」の発令や日本全国に記録的な豪雨を降らせた台風などによる影響を受けましたが、税込100円の白皿キャンペーンやIPコラボを継続して実施することにより、業績向上に取り組みました。「年に一度の別格まぐろ祭」では、まぐろの目利きプロ集団「八州水産」が選び抜いた「大切りびんちょう鮪」を1皿税込100円で提供しました。大人気格闘ゲーム「ストリートファイター」とのコラボキャンペーンでは「スシローSUPERお徳祭」を実施し、第一弾では「大切り厳選めばち鮪」や「大切りサーモン」、第二弾では「いくら」、第三弾では「本鮪中とろ」を1皿税込100円で提供し、お客様に大変ご好評をいただきました。さらに、夏休みに合わせて「こどもスシロー」の夏の特別企画として、お子様を中心に人気がある「トミカヒーローズ ジョブレイバー 特装合体ロボ」や「リカちゃん」とのコラボも実施しました。

また、昨年9月より「回転寿司の一步先へ」に向けた取り組みとして、デジタルビジョンと回転レーンを融合させた「デジタル スシロービジョン」、通称「デジロー」を導入し、当期末までで計19店舗に導入しました。

以上の結果、国内スシロー事業の売上収益は238,173百万円（前連結会計年度比15.7%増）、セグメント利益は14,217百万円（前連結会計年度比191.3%増）となりました。

#### (海外スシロー事業)

7月には中国大陸 天津に「デジタル スシロービジョン」（通称デジロー）を海外で初導入した店舗をオープン。8月には北京に「デジロー」と個室を完備した店舗で初出店し、一時、12時間待ちの行列ができるほどの大盛況となりました。中国大陸では、通期で+13店舗を出店し、不採算の3店舗を閉店。その他の地域では、台湾+8店舗、香港+7店舗、シンガポール+3店舗、タイ+9店舗、インドネシア+4店舗、韓国では都市部 明洞に「デジロー」店舗をオープンし、+1店舗と、新規出店を順調に継続しております。

また、来店客数の維持・拡大に向けて、魅力的な販促・マーケティング施策を各地域で継続的に実施しており、タイでは「中とろ」や「うなぎ」を中心とした「赤皿うなトロ」キャンペーン、香港では創業5周年を記念して、「大切りごま塩めばちまぐろ」や「特大はたて貝柱」などをご堪能いただける「スシロー五周年創業祭」を開催しました。

以上の結果、海外スシロー事業の売上収益は92,138百万円（前連結会計年度比39.3%増）、セグメント利益は7,194百万円（前連結会計年度比35.9%増）となりました。

#### (京樽事業)

京樽ブランドでは、お持ち帰り鮪専門店「京樽」の看板商品である「京樽伝統の茶きん鮪」が、8月に一般社団法人日本フードアナリスト協会が主催する「ジャパン・フード・セレクション」にて最高賞であるグランプリを受賞しました。また、第4四半期会計期間におきましても、各種販促や期間限定商品などを多数展開しており、8月には山の日に合わせて山盛り特別商品を販売、9月には敬老の日に合わせて、彩り鮮やかなお鮪とお刺身がお楽しみいただけるお祝弁当を3日間限定でご提供しました。

みさきブランドでは、「みさきデー」をはじめ、月に1度のフェアや週替わりでお得な商品を提供する「週替わりの得する祭」、通称「週得祭」を継続して実施しております。7月には豪快！贅沢！稀少！な寿司を様々取り揃えた「みさき夏祭り」、8月には大切り！大ネタ！大盛りの寿司ネタをご賞味いただける期間限定フェアを実施し、9月には「超みさきデー」を開催し、こだわりの「特製赤シャリ」を使った「本まぐろ中とろ」税込110円を10日間限定で販売しました。

以上の結果、京樽事業の売上収益は23,986百万円（前連結会計年度比1.9%減）、セグメント損失は350百万円（前連結会計年度セグメント損失653百万円）となりました。

## ② 次期の見通し

売上収益につきましては408,000百万円(前連結会計年度比13.0%増)、調整後EBITDA41,800百万円(前連結会計年度比11.5%増)、営業利益につきましては26,000百万円(前連結会計年度比11.2%増)、親会社の所有者に帰属する当期利益につきましては15,000百万円(前連結会計年度比2.5%増)を見込んでおります。

## (2) 当期の財政状態の概況

## (資産)

総資産の残高は、前連結会計年度末に比べ13,536百万円増加し、365,154百万円となりました。

流動資産の残高は、前連結会計年度末に比べ3,254百万円増加し、74,656百万円となりました。これは主に、棚卸資産が2,547百万円増加したこと等によるものであります。

非流動資産の残高は、前連結会計年度末に比べ10,282百万円増加し、290,499百万円となりました。これは主に、有形固定資産が8,320百万円増加したこと等によるものであります。

## (負債)

負債合計は、前連結会計年度末に比べ8,357百万円増加し、287,317百万円となりました。

流動負債の残高は、前連結会計年度末に比べ648百万円減少し、80,843百万円となりました。これは主に、社債及び借入金が14,998百万円減少したこと及び営業債務及びその他の債務が5,489百万円増加したこと等によるものであります。

非流動負債の残高は、前連結会計年度末に比べ9,005百万円増加し、206,474百万円となりました。これは主に、社債及び借入金が10,562百万円増加したこと等によるものであります。

## (資本)

資本合計は、前連結会計年度末に比べ5,179百万円増加し、77,837百万円となりました。これは主に、配当金の支払により2,603百万円、自己株式の取得により7,503百万円それぞれ減少した一方で、親会社の所有者に帰属する当期利益の計上により14,633百万円増加したこと等によるものであります。

## (3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ2,533百万円減少し、48,695百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、56,326百万円(前連結会計年度比33.0%増)となりました。

これは主に、税引前利益21,653百万円、減価償却費及び償却費30,760百万円、減損損失2,192百万円の計上及び営業債務及びその他の債務の増加が4,459百万円あった一方で、棚卸資産の増加が2,558百万円、法人所得税の支払額が2,580百万円あったこと等によるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、24,066百万円(前連結会計年度比34.5%増)となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出が19,530百万円あったこと等によるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、34,322百万円(前連結会計年度比43.8%増)となりました。

これは主に、社債の償還による支出20,000百万円、社債の発行による収入19,494百万円、リース負債の返済による支出が19,716百万円、自己株式の取得による支出7,504百万円あったこと等によるものであります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2022年9月期	2023年9月期	2024年9月期
親会社所有者帰属持分比率(%)	19.3	20.1	20.5
時価ベースの親会社所有者帰属持分比率(%)	77.5	82.7	89.2
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(%)	725.8	523.0	385.1
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	31.6	29.7	28.1

(注) 親会社所有者帰属持分比率：親会社の所有者に帰属する持分／資産合計

時価ベースの親会社所有者帰属持分比率：株式時価総額／資産合計

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

※ 各指標はいずれもIFRSに基づく連結ベースの財務数値により計算しております。

※ 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数(自己株式控除後)により算出しております。

※ キャッシュ・フローは連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は連結財政状態計算書上に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いは連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

## (4) 利益分配に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、株主の皆様に対する利益の還元を経営上重要な施策の一つとして位置づけており、恒常的な業績向上と業績に応じた適正な利益分配を継続的に実施することを基本方針とし、配当については、安定的に実施することを基礎とし、業績及び内部留保の充実等を総合的に勘案しながら、業績に連動した年1回の剰余金配当を実施する方針です。

内部留保資金については、経営基盤の強化に向けた諸施策の実施のための積極的な投資等の原資として充当してまいります。

上記の基本方針を踏まえ、2023年11月に公表させて頂きました中期経営計画(2024年度～2026年度)及び当連結会計年度における業況を勘案し、取締役会等にて議論した結果、当社グループの成長戦略に十分な内部留保を確保した上で株主還元強化を図るべく、継続的に実施させて頂く1株当たり配当金の見直しを行い、1株当たり配当金22.50円より5.00円増額し、1株当たり配当金を27.50円とさせていただきます。

また当期におきましては、1株当たり27.50円の普通配当に加え、1株当たり2.50円の記念配当を実施させていただきます。

次期の配当につきましては、添付資料4ページに記載の次期の見通しの達成を前提として、1株当たり年間27.50円を予定しております。

詳細については「2024年11月8日公表の「株主還元方針の変更、2024年9月期 剰余金の配当(期末配当・増配(記念配当含む))及び2025年9月期 配当予想に関するお知らせ」をご参照下さい。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、資本市場における財務情報の国際的な比較可能性及び利便性の向上を図るため、2016年9月期より国際会計基準(IFRS)を適用しております。

## 3. 連結財務諸表及び主な注記

## (1) 連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年9月30日)	当連結会計年度 (2024年9月30日)
<b>資産</b>		
流動資産		
現金及び現金同等物	51,228	48,695
営業債権及びその他の債権	12,457	13,882
棚卸資産	3,965	6,512
その他の金融資産	1,389	2,940
その他の流動資産	2,363	2,627
流動資産合計	71,401	74,656
非流動資産		
有形固定資産	176,615	184,936
のれん	30,371	30,371
無形資産	56,332	57,016
持分法で会計処理されている投資	52	52
敷金及び保証金	14,257	14,766
その他の金融資産	417	1,232
繰延税金資産	1,490	1,552
その他の非流動資産	682	574
非流動資産合計	280,217	290,499
資産合計	351,619	365,154
<b>負債及び資本</b>		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	30,080	35,569
社債及び借入金	24,007	9,009
未払法人所得税	1,070	4,710
リース負債	17,901	19,523
その他の金融負債	1,362	1,006
引当金	3,136	5,275
その他の流動負債	3,935	5,750
流動負債合計	81,491	80,843
非流動負債		
営業債務及びその他の債務	23	22
社債及び借入金	64,952	75,514
リース負債	114,689	112,838
その他の金融負債	111	105
引当金	4,363	4,730
繰延税金負債	13,330	13,264
非流動負債合計	197,468	206,474
負債合計	278,960	287,317
資本		
資本金	100	100
資本剰余金	15,676	15,734
利益剰余金	53,787	65,818
自己株式	△1,840	△9,156
その他の資本の構成要素	4,544	4,073
親会社の所有者に帰属する持分合計	72,268	76,568
非支配持分	391	1,269
資本合計	72,659	77,837
負債及び資本合計	351,619	365,154

## (2) 連結損益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)	当連結会計年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)
売上収益	301,747	361,129
売上原価	△134,229	△155,796
売上総利益	167,518	205,334
販売費及び一般管理費	△152,437	△179,848
その他の収益	1,313	1,084
その他の費用	△5,393	△3,186
営業利益	11,001	23,384
金融収益	325	461
金融費用	△1,514	△2,191
持分法による投資損益 (△は損失)	52	—
税引前利益	9,864	21,653
法人所得税費用	△1,458	△6,209
当期利益	8,406	15,445
当期利益の帰属		
親会社の所有者	8,045	14,633
非支配持分	362	811
当期利益	8,406	15,445
1株当たり当期利益		
基本的1株当たり当期利益 (円)	69.54	127.46
希薄化後1株当たり当期利益 (円)	69.01	126.32

## (3) 連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)	当連結会計年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)
当期利益	8,406	15,445
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて測定する 金融資産の公正価値の純変動	△81	△143
純損益に振り替えられることのない 項目合計	△81	△143
純損益に振り替えられる可能性のある 項目		
在外営業活動体の換算差額	530	△561
純損益に振り替えられる可能性のある 項目合計	530	△561
税引後その他の包括利益	449	△704
当期包括利益	8,855	14,740
当期包括利益の帰属		
親会社の所有者	8,484	13,863
非支配持分	372	878
当期包括利益	8,855	14,740

## (4) 連結持分変動計算書

(単位：百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分	資本合計
2022年10月1日時点の残高	100	15,692	47,579	△1,894	3,639	65,117	18	65,134
会計方針の変更による累積的影響額			766			766	2	767
会計方針の変更を反映した当期首残高	100	15,692	48,345	△1,894	3,639	65,882	19	65,902
当期利益			8,045			8,045	362	8,406
その他の包括利益					439	439	10	449
当期包括利益合計	—	—	8,045	—	439	8,484	372	8,855
自己株式の処分		△27		55	△8	19		19
自己株式の取得				△0		△0		△0
新株予約権の失効		11			△11	—		—
株式に基づく報酬取引					485	485		485
配当金			△2,603			△2,603		△2,603
所有者との取引額合計	—	△16	△2,603	55	466	△2,098	—	△2,098
2023年9月30日時点の残高	100	15,676	53,787	△1,840	4,544	72,268	391	72,659
当期利益			14,633			14,633	811	15,445
その他の包括利益					△771	△771	67	△704
当期包括利益合計	—	—	14,633	—	△771	13,863	878	14,740
自己株式の処分		△130		184	△40	14		14
自己株式の取得		△2		△7,500		△7,503		△7,503
新株予約権の失効		190			△190	—		—
株式に基づく報酬取引					529	529		529
配当金			△2,603			△2,603		△2,603
所有者との取引額合計	—	58	△2,603	△7,317	300	△9,562	—	△9,562
2024年9月30日時点の残高	100	15,734	65,818	△9,156	4,073	76,568	1,269	77,837

## (5) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)	当連結会計年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前利益	9,864	21,653
減価償却費及び償却費	26,586	30,760
減損損失	4,975	2,192
金融収益	△325	△461
金融費用	1,498	2,191
賞与引当金の増減額 (△は減少)	658	2,040
敷金及び保証金の家賃相殺額	282	540
持分法による投資損益 (△は益)	△52	—
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)	△2,295	△2,535
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△389	△2,558
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)	2,580	4,459
その他	914	1,411
小計	44,298	59,691
利息及び配当金の受取額	102	139
利息の支払額	△1,428	△2,008
法人所得税の支払額	△3,026	△2,580
法人所得税の還付額	2,414	1,083
営業活動によるキャッシュ・フロー	42,360	56,326
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△15,755	△19,530
有形固定資産の売却による収入	655	14
無形資産の取得による支出	△957	△1,196
定期預金の預入による支出	△1,413	△3,207
定期預金の払戻による収入	796	1,796
敷金及び保証金の差し入れによる支出	△1,733	△1,642
投資有価証券の取得による支出	—	△1,035
その他	519	734
投資活動によるキャッシュ・フロー	△17,888	△24,066
財務活動によるキャッシュ・フロー		
社債の償還による支出	—	△20,000
社債の発行による収入	—	19,494
長期借入金の返済による支出	△4,009	△4,009
リース負債の返済による支出	△17,297	△19,716
支払手数料の支払による支出	△6	△15
自己株式の取得による支出	△0	△7,504
新株予約権の行使による収入	19	14
配当金の支払額	△2,598	△2,599
その他	15	12
財務活動によるキャッシュ・フロー	△23,876	△34,322
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	596	△2,062
現金及び現金同等物の期首残高	50,637	51,228
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4	△471
現金及び現金同等物の期末残高	51,228	48,695

## (6) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

本連結財務諸表において適用する重要性がある会計方針は、以下を除き前連結会計年度の連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

当社グループは、当連結会計年度より、以下の基準を採用しております。

基準書	基準名	新設・改訂の概要
IAS第12号 (改訂)	法人所得税	繰延税金資産及び繰延税金負債の当初認識の免除規定に係る改定
IAS第12号 (改訂)	法人所得税	「国際的な税制改革-第2の柱モデルルール」を導入するために制定又は実質的に制定された税法から生じる法人所得税に関する開示

IAS第12号(改訂)「法人所得税」(2021年5月改訂)の適用により、取引時に同額の将来加算一時差異と将来減算一時差異を生じさせる取引に関する当初認識時の会計処理が明確化され、当該将来加算一時差異と将来減算一時差異について繰延税金負債及び繰延税金資産が連結財政状態計算書にそれぞれ認識されることとなります。

同基準の適用により、前連結会計年度の連結財務諸表を遡及修正しております。その結果、連結財政状態計算書の前連結会計年度末において、「繰延税金資産」が937百万円、「繰延税金負債」が23百万円、「利益剰余金」が912百万円、「非支配持分」が3百万円それぞれ増加しております。また、連結損益計算書及び連結包括利益計算書において、「法人所得税費用」の変動により、当期利益が147百万円増加しております。

なお、同基準の適用による累積的影響額が反映されたことにより、連結持分変動計算書において、前連結会計年度の「利益剰余金」の期首残高が766百万円、「非支配持分」の期首残高が2百万円それぞれ増加しております。

(セグメント情報)

## (1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、主に事業別のセグメントから構成されております。

各報告セグメントに含まれる主要ブランドは以下のとおりであります。

国内スシロー事業：国内で展開する「スシロー」及びテイクアウト専門店

海外スシロー事業：海外で展開する「スシロー」及びテイクアウト専門店

京樽事業：株式会社京樽が運営する全ブランド(主要ブランド「京樽」・「回転寿司みさき」・「海鮮三崎港」)

その他事業：株式会社FOOD & LIFE INNOVATIONS が運営する全ブランド(主要ブランド「杉玉」)

## (2) 報告セグメント売上収益及び業績

当社グループの報告セグメントによる売上収益及び業績は以下のとおりです。

前連結会計年度(自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計	調整額合計 (注) 2	連結合計
	国内スシロ ー事業	海外スシロ ー事業	京樽事業	その他事業			
売上収益							
外部収益	205,906	66,132	24,329	5,380	301,747	—	301,747
セグメント間収益	—	—	117	44	161	△161	—
計	205,906	66,132	24,446	5,423	301,908	△161	301,747
セグメント利益又は 損失(△は損失) (注) 1	4,881	5,293	△653	△380	9,140	1,861	11,001
その他の項目							
減価償却費及び償 却費	16,070	7,571	1,659	642	25,942	645	26,586
減損損失	3,904	337	382	353	4,975	—	4,975

(注) 1. セグメント利益又は損失は連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. セグメント利益又は損失の調整額1,861百万円には、主にセグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社損益が含まれております。

当連結会計年度(自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計	調整額合計 (注) 2	連結合計
	国内スシロ ー事業	海外スシロ ー事業	京樽事業	その他事業			
売上収益							
外部収益	238,173	92,138	23,939	6,880	361,129	—	361,129
セグメント間収益	—	—	47	91	139	△139	—
計	238,173	92,138	23,986	6,971	361,268	△139	361,129
セグメント利益又は 損失(△は損失) (注) 1	14,217	7,194	△350	205	21,267	2,116	23,384
その他の項目							
減価償却費及び償 却費	16,401	11,010	1,738	728	29,876	885	30,760
減損損失	582	1,179	400	30	2,192	—	2,192

(注) 1. セグメント利益又は損失は連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. セグメント利益又は損失の調整額2,116百万円には、主にセグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社損益が含まれております。

## (3) 製品及びサービス別に関する情報

当社グループは単一の製品及びサービスを販売しているため、製品及びサービス別の売上収益の記載を省略しております。

## (4) 地域別に関する情報

外部顧客からの国内売上収益が連結損益計算書の売上収益の大部分を占めるため、地域別の売上収益の記載を省略しております。

また、日本国内の非流動資産の帳簿価額は、連結財政状態計算書の非流動資産の大部分を占めるため、地域別の非流動資産の記載を省略しております。

## (5) 主要な顧客に関する情報

当社グループの売上収益の10%以上を占める単一の外部顧客は存在しないため、記載を省略しております。

## (販売費及び一般管理費)

販売費及び一般管理費の内訳は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)	当連結会計年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)
従業員給付費用	83,619	99,672
減価償却費及び償却費	26,524	30,686
水道光熱費	8,465	9,020
その他	33,829	40,471
合計	152,437	179,848

## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)	当連結会計年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)
親会社の普通株主に帰属する 当期利益(百万円)	8,045	14,633
基本的1株当たり当期利益の計算に 使用する普通株主に係る当期利益 (百万円)	8,045	14,633
希薄化後1株当たり当期利益の計算 に使用する普通株主に係る当期利益 (百万円)	8,045	14,633
基本的期中平均普通株式数(株)	115,681,282	114,808,427
希薄化後1株当たり当期利益の計算 に用いられた普通株式増加数(株)	888,514	1,032,418
希薄化後の期中平均普通株式数(株)	116,569,796	115,840,845
基本的1株当たり当期利益(円)	69.54	127.46
希薄化後1株当たり当期利益(円)	69.01	126.32
希薄化効果を有しないため、希薄化 後1株当たり当期利益の算定に含め なかった潜在株式の概要	新株予約権3種類 (普通株式228千株)	新株予約権4種類 (普通株式293千株)

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。